

# 湯原温泉病院

野村 修一



## はじめに

高速道路（米子道）を山中深く分け入ること10分、眼下にはじめて人里らしい集落が見えるとそこが湯原温泉郷のひとつ、湯原温泉病院の立地する下湯原地区です。インターチェンジを下りると湯原温泉郷の大きな看板がありますので、そこを右折して約2km、旭川と田園を前にして茶色い屋根の横長の建物がすぐ目に入ります。これが真庭市国民健康保険湯原温泉病院です。

真庭市は「平成の大合併」で旧真庭郡9町村が集まって誕生した新しい市です。湯原温泉病院はその中のひとつ湯原町の町立病院として運営されてきたものですが、それを機に市に移管されたものです。

真庭市は岡山県の郡市の中で一番面積が広く、そして山深く8割は山林で占められています。地勢的に真庭市は市街地の広がる南部と山深い北部に分けられます。南部は真庭市の人口の4/5が住み7病院（民間病院）があります。北部地区は山間に

集落が点在し人口は1/5にすぎません。湯原病院はこの北部地区の唯一の病院（公的病院）です。

当院は名前のごとく湯原温泉郷の一角にあり、温泉をふんだんに使える環境にあります。温泉を利用できることは病院の大きな特色であり有難い恵みです。

当院は地域密着型の一般病院として歩みを重ね、昨年は病院開設50周年迎えました。

## 沿革

昭和35年 8月	湯原町立湯本診療所を母体として湯原温泉病院（20床）開設
昭和36年 1月	増床（40床）
昭和51年 3月	増床（70床）
昭和55年 9月	増床（100床）
昭和57年 4月	増床（124床）
平成14年 4月	へき地医療拠点病院指定
平成17年 3月	新病院開院
	真庭市国民健康保険湯原温泉病院に改組・改称

平成18年12月 ISO9001取得

平成23年 4月 地方公営企業法全部適用

## 病院の概要

診療科目：内科，外科，整形外科，神経内科，呼吸器科，胃腸科，循環器科，アレルギー科，リウマチ科，皮膚科，肛門科，リハビリテーション科，放射線科  
病床数：105（一般病床50 療養病床55）

付属診療所：5ヵ所

医師数：常勤医7名，非常勤医7名

付帯事業：訪問看護ステーション，在宅介護支援事業所，通所リハビリテーション

職員数：118名

## 診療の特徴

広大な真庭北部地区の唯一の公的病院として医療の中心的存在です。人口の過疎化に伴って民間バスは撤退し、現在は市営のコミュニティバスが谷々を縫って運行されており、多くの高齢者がこれを利用して通院されます。通院困難な方には病院は山間に5ヵ所の僻地診療所を有し週に1～2日の診療におもむいています。他の地区の病院までは30分～1



温泉プール

時間を要しますので救急医療は当院の重要な業務であり、24時間365日の救急応需を続けています。

医師数も設備も限られておりすべての疾患には対応はできませんので岡山大学などから多大な応援を得て上記の範囲の診療を行っております。当院で対応できない症例は、真庭市南部、津山、倉吉、県南の諸病院に診療の依頼しており、大変有難く思っています。

湯原温泉は癖のない素直な泉質で禁忌疾患が少なく、当院ではそのお湯がふんだんに利用できます。病棟の風呂は温泉かけ流しであり、曜日や時間の制限はほとんど無く入浴ができます。また、リハビリ施設に併

設した20mの温泉プールを有し、運動器リハビリに効果をあげていますし、また、時間の一部を近隣住民にも開放して大変好評です。ある種の皮膚病に温泉療法は有効であります。が、淀川キリスト教病院皮膚科の協力でアトピー性皮膚炎脱ステロイド療法に温泉入浴療法を併用して患者に朗報となっています。また、一般診療に加え在宅医療・介護へのニーズは高く、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、在宅介護支援事業に力を入れています。

## 最後に

中山間地域の宿命ですが、真庭北部地区は岡山県で最も人口減少と高

齢化の著しい地区の一つです。この地域の病院医療の火を絶やさないために我々自身の努力が求められますがそれだけでは維持が困難です。市民や行政機関はもとより岡山大学や大学関係各位のご理解ご協力なくしては存立しえないことを強く意識しております。

---

平成23年12月受理

〒717-0403 真庭市下湯原56

電話：0867-62-2221 FAX：0867-62-2223

E-mail：syuiti-nomura@city.maniwa.lg.jp

<http://www.yubara.com/hospital/>